

# 「落ち穂拾い記」⑯

## 梧竹堂法帖(下) 中林梧竹旧藏『興福寺断碑』

梧竹堂法帖の大部分が、金沢のO氏が所蔵されていると佐々木盛行さんから聞いたことを、いつの頃か同窓同期の書展のために上京されていた、1年後輩の金沢住のHさんに話したことがあった。その後しばらくして、HさんからO氏が所蔵されていると教えられた。その後Hさんに同道を願い、「梧竹堂法帖」の全貌を閲覧することができた。失礼のないように午後の数時間で見終えた。写真や筆記メモは一切取らず、カセットテープを用いて見たものを自分で声を出しながら記録したことを覚えている。整拓本が五帙、剪装本二十四帙であった。閲覧終了後、当主にお願いして1枚だけ梧竹堂法帖の外装(旧蔵者O氏が作られた書帙)を写させて頂いた。この閲覧がいつ頃か気になり、その写真的右下に記された数字に87.11.26とあることから1987年(昭和62のこと)と再認識した。その10年後、東京都の高校の国語教員を中心とした大学で日本語教育をおこなう事業に加わり、北京に1年間派遣された。半年後一時帰国し、久しぶりで神保町を巡ったときに、馴染みの古書店の主人から虫損のある拓本を見せられた。見覚えのある「梧竹堂法帖」の題簽である。金沢で観た「梧竹堂法帖」が想起された。開いてみると唐時代に制作された書聖・王羲之の集字碑「興福寺断碑」の剪装拓本である(図版①)。やや高いが買い求めた。その後、金沢のO氏所蔵の二十四帙の剪装「梧竹堂法帖」の表紙の布地などが同系であるが、折帖の大きさが、異なり小型である。



図版②

(図版②)。O氏所蔵の剪装本には、前回紹介した「唐碑額集」と同じような帙が付されているが、この「興福寺断碑」には、帙はない。多分失われたのである。見開きの巻頭と巻末には、陽刻の「梧竹審定」の大印が、また折帖の各頁毎に中央と左右の端に割印のようく巻末まで、「梧竹」の朱文橢円印と「金石癖」の朱文方印が捺されている(図版③)。O氏所蔵の剪装本にも同じように捺されていた。こうした鑑藏印の捺され方は、これまで余り目にしたことはなかった。こうして中林梧竹が、明治時代に自ら清国にわたり、1年余の北京滞在中に収集、整理し、表丁を整えて将来し、秘蔵した「梧竹堂法帖」の「唐碑篆額集」「興福寺断碑」の2件を偶然なことから手にした。数年後2001年に成田山書道美術館で開催された「明治を生きた個性派・中林梧竹を中心に」展覧で、この2件を出品した。これが梧竹没後、公に「梧竹堂法帖」の一端が、展覧された最初ではなかろうか。数年して2004年、徳島県立文学書道館にて「梧竹名品展・北京将来の碑帖」として、金沢のO氏所蔵の「梧竹堂法帖」の一部が公開された。梧竹研究家・日野俊顕氏が、企画されたのである。この展覧の前に、O氏所蔵の「梧竹堂法帖」が文学館に寄託されたのを受けて、日野俊顕氏が詳細に調査させていた。拙宅にも来られて家蔵の2件を確認され、O氏所蔵と家蔵2件を合わせると、中林梧竹が明治に将来した「梧竹堂法帖」が、ほぼ完全になると話された。

伊藤滋(書齋名・木鶏室)



図版③

# 書道芸術院

## 令和の群像 (2021)



第37回日本詩文書作家協会書展「祈り」菊池優詩

菊池富美子書



菊池富美子

### 「私の歩んできた道」

私は宮城県白石市に生を受けました。小学校2年生の時、浜田一堂先生と出会い書道教室に通い始めました。毎週日曜日のお稽古を高校卒業するまで続けました。全国学生書道展の作品が仕上がりながらず夜遅くまで清書する私をお雪が舞う教室の外で待つてくれた母。お清書用の墨を家族が交替で磨ってくれたこと。全国学生書道展に入賞し先生に連れられて夜行列車で都美術館の表彰式に出たこと。どれも懐かしい思い出です。

その後、書道を続けようと二松学舎大学に進みました。ところが大学の授業は濃墨ではなくサラサラとした墨に毫毛、初めての経験でした。先生に濃墨では駄目と厳しく叱られ臺毛の筆を買いました。まさにカルチャーショックです。正直学校を止めようかと考えいました。でも気持ちを切り替え毫毛に徹することにしました。後に埼玉県で書道を教える上では役に立ちました。大学生になって初めての帰郷の折、現代詩の大きな作品を書くことになりました。まず先生が目の前でお手本を書いてくれます。先生の動きに驚きました。縦線を引く時、2メートル程も勢いよく体ごと動いた事を覚えています。初めて見る光景

でした。体を使って書くのだと教えられました。その時に指導サポートしてくれたのが、浜田堂光先生、大槻秀碧先生、佐藤無極先生でした。創作の基本を教わりました。

その後、結婚して埼玉に住むことになり、師や先輩と離れ、とても心細く不安でした。そんな時、同郷の國嶋一春さんも埼玉に嫁ぎ、心細さが薄れました。今も交流は続いている。

師と離れてどう書と向き合って行けばよいかと考えた末、沢山の芸術作品や先達の仕事を見よう。そして感性を磨いていく努力をしようと。そう決めました。主人の協力を得て、京都奈良の寺や文化財を5年かけて見て回りました。東寺の立体曼荼羅、室生寺の十一面観音、法隆寺の百濟觀音とどんどん好きな仏像が増えました。表情、眼差し、衣装の細やかさや色彩が素晴らしい心が豊かになる出会いでした。

詩文書の作品は詩文との出会いによって表現が決まります。20年前から主人が詩文をつくってくれるようになりました。(浜田一堂先生のすすめです)一緒に見て回った京都奈良の詩を主人がつくり私が書くようになりました。続けて行く中で困難はあります。が、多くの人に支えられて今の自分があります。皆様に感謝してこの先も歩んで行きたい

# 書のひろば

理事長  
辻元大雲

コロナウイルス蔓延はいつまであきらめず、一步一歩、前を向いて

世の中の騒擾に關係なく、桜前線は例年にはないスピードで北上し、今や若葉薰る好機となってきた。しかし私達を取りまく社会情勢は、相変わらずコロナウイルス蔓延の厳しさから逃れられないでいる。

ばよいのか。これまで何度も同じことを申し上げているが、あきらめない。こんな苦しい時だからこそ、今できることを一つ一つこなしていく。決して歩を緩めず、少し休んでもいいから、前を向いて進んでいきたい。

昨年春から早や1年以上経過し、社会情勢も生活内容もかなり変わってきている。考えれば昨年のコロナウイルス蔓延の初めころより、現在の方が数倍ひどい状況であると思うが、コロナ

慣れというか、社会生活や経済を止められない流れの中で、コロナウイルスに対する感覚が鈍くなってきてている

5日よりマンボウ「まん延防止等重点措置」が発令され、4月12日からは東京ほか数地区にも発令された。2度も3度も繰り返され、「またか」というあきらめにも似た気分が重くのしかかる。一体いつまで続くのか。先を見通せない不安、普段通りの生活や活動が色々制限され、生きる気力や、やる気

今後毎日書道展や諸行事が計画されている。書道芸術院としては本年11月に創立75周年を迎える記念すべき年に当たる。前号でお知らせした通り、諸々の計画も今後実施に向け諸準備が始まっている。

かとんとん失せていくのは仕方ないことをなのか。  
私達書に携わる者にとって、書活動、人普段の練習から展覧会作品の制作、人

全国の本院役員にもとより会員諸君のご支援ご協力なくして出来るものではない。共に手を携えて、一步ずつ前進したい。共に頑張ろう。

によっては会の運営やお稽古なども活動場所が制限され、対面での普通の活動が全くできない方もいる。仕方なく通信などで何とかつないでいる方もおられる。中には全て諦めて、やめてしまつた方もいることだろう。どうすれば

4月12日(月)午後、東京如水会館にて、第72回毎日書道展事務局合同会議が開催された。昨年開催を見送った影

## 第72回毎日書道展始動 事務局合同会議開催

響もあり、本年の再開催は正に背水の陣の様相を見せてゐる。

今回は新型コロナウイルス、まん延防止等重点措置発令下のため、主要役員（部長・副部長・主任クラス）のみの参加で例年より大幅に参加者を制限して行われた。

主要役員体制は昨年決定内容を踏襲し、一部事情により交代があった。当番審査員、会員賞選考委員も同様ではほぼ昨年決定の組織で運営される。

◎出品に当たつての注意事項

- 公募（U23 含む）・会友搬入
  - \* 日時 5月10・11日（毎日ホール）
  - 篆刻、刻字は5月12日書類（出品目録N05）のみ搬入
- 作品は6月21・22日搬入

\* 漢字、近代詩文書

公募会友とも 作品も同時に、1点ずつA4サイズに折りたたんで搬入 \*かな・大字書・前衛

公募のみ作品と共に搬入。

10枚程度をまとめて折りたたむ  
会友は書類（出品目録N05）のみ。  
作品は5月21日までに表装店へ

\* 役員作品 書類縮切 6月9日  
作品搬入 6月21・22日（国立）

鑑別審査は5月20～23日（国立）  
(篆刻・刻字は6月25～27日)  
入賞審査はかな部が6月18・19日、  
その他の部門は6月25～27日とずらして行われる。

◎表彰式・祝賀会

7月18日(日) 13:00

ザ・プリンスパークタワー東京

上位入賞者のみ（会員賞・毎日賞）  
秀作賞・佳作賞は代表（U23も同様）  
祝賀会は中止する。

◎書道芸術院毎日展出品者懇親会（7月18日予定）も中止する。

3月11日、上野精養軒にて開催。

令和3年度事業計画・予算案などが審議された。

・創立70周年を4月1日に迎え、記念事業として「全日本書道連盟70年史

8月6日～8日、

◎表彰式・祝賀会  
7月18日(日) 13:00  
ザ・プリンスパークタワー東京  
上位入賞者のみ(会員賞・毎日賞)  
秀作賞・佳作賞は代表(U23も同様)  
祝賀会は中止する。

◎書道藝術院毎日展出品者懇親会  
(7月18日予定)も中止する。

全日本書道連盟理事会開催  
3月11日、上野精養軒にて開催。  
令和3年度事業計画・予算案などが審議された。

・創立70周年を4月1日に迎え、記念事業として「全日本書道連盟70年史」の発行を行う。付録として「書道塾経営、運営ハンドブック」(A4判、50頁程度)を発行、全会員に配布予定。発行時期は年内を予定。

・総会 6月3日(木) 上野精養軒

・書道夏期大学開催  
8月6日~8日、池袋サンシャイン  
講師 篆書・隸書(中村伸夫理事)  
行書・草書(宮負丁香監事)  
かな(岩井秀樹評議員)  
漢字かな交じり書(船本芳雲理事)  
刻字(薄田東仙理事)

かな基礎基本講座  
(12)

下谷洋子

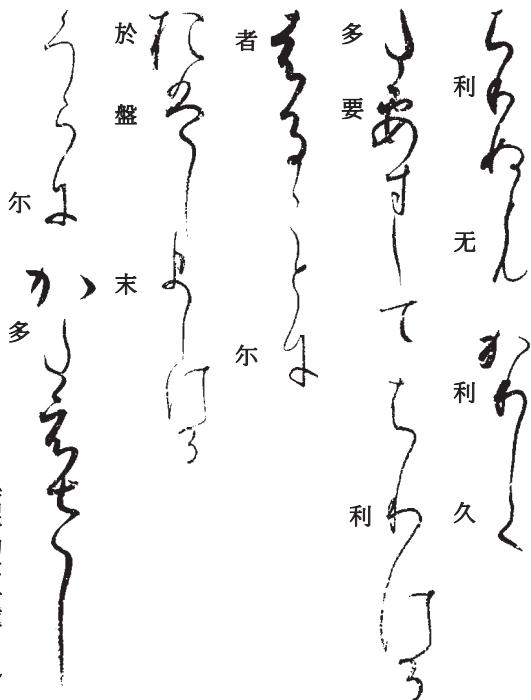
## 行について

## ②行の疎と密

連綿が美しく見えるのは、リズムが滑らかに流れるとときです。リズムというのは、調子のことですが、先月号の文字の大小とともに、どのように連綿するかが大きく係わります。連綿が、整然と均等化されていてはリズムは感じません。流れが密になつたり、ゆるんだりすることで、変化が表れ、リズム的に見えます。行の中で、疎と密がどういうときに生じるのかを古筆から探りましょう。

疎→単純な字が続く・細く伸びる字、字幅の狭い字が続く墨の少ないときが多い

密  
→ 文字が接近する・墨量の多い字が集中する・太い文字が寄り合つ



(高野切第一種より)

基礎基本講座

【臨書から現代詩文書への展開】

① 九成宮醴泉銘風のひらがな

は至難である。字形に寸分の狂いもないものに、かなとの調和それに筆者の解釈を入れること

• 背勢の特徴を取り入れ少し縮長にした。筆管はやや手前に傾け書くが、こすらないように書いた。

・凜とした筆線は歐陽詢の長年の

鍛錬と人格、社会、時代背景などの中から生まれたことは周知の通りである。それをいとも安易に○○風と言つて表現するこ

八  
九

②九成宮醴泉銘風の現代詩文書

・二行並列で屹立する杉林と行間の清々しい空気感をイメージし、九成宮の書風を重ねてみた。潤

渴を入れることで明るさも生まれてくる。

2

人間は奇縁の  
事多し

現代詩文書基礎基本講座  
(12) 小竹石雲

白雪紅梅賞



「威」

種谷萬城先生評



「寿無涯」

種谷萬城先生評



漢字部

佐野文子

濃墨を用い、ダイナミックな筆致が生み出した、重厚感溢れる線が光る。生氣に満ちた魅力的な作。



「望湖樓醉書」



漢字部  
佐伯哲哉

隸意が奥に潜んでいる14文字。力感あふれ堂々としている。更に一画一画に神経が行き届いている。

後藤大峰先生評

第74回書道芸術院展

〈2〉



漢字部

種谷森城

「無」の切れの良い横画と斜画が作品を引き締めている。「壽」の墨量更に多ければ可。

名越蒼竹先生評



「西亭春望」



漢字部  
田中岳舟

多字数を一気通貫し潤滑と余白の美しさが漂う流麗美な作風である。間の取り方が見事。

半田藤扇先生評



漢字部  
佐伯哲哉

隸意が奥に潜んでいる14文字。力感あふれ堂々としている。更に一画一画に神経が行き届いている。

後藤大峰先生評

## 白雪紅梅賞

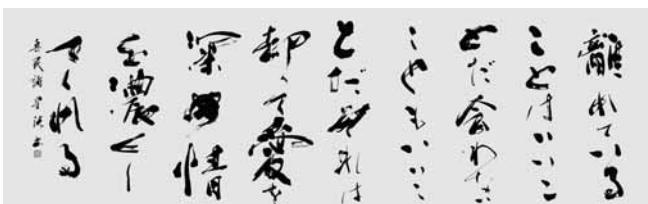


「武者小路実篤の詩」

現代詩文書部  
磯貝清耀

自然な行書きで淡々と歩み、ほのぼのとした趣。柔毛を爽やかに駆使したが、もう少し山場が欲しかった。  
〈下谷洋子先生評〉

「汾上驚秋」

漢字部  
前浜裕香

「離れていることは」

現代詩文書部  
神本星洗

言葉を心で噛みしめつつ温もりを筆触に織り込み、筆意が静かに詩情を紡いでゆく。筆者の一途な心根が美しい。

〈尾形澄神先生評〉

つりあげた筆は、粘りのある線に明るさを孕み、爽快な作品に仕上がっている。  
〈小竹石雲先生評〉



「できたら」

現代詩文書部  
真田舞夢

〈辻元大雲先生評〉

白雪紅梅賞

「苦による」



前衛書部  
安藤楊風

淡墨ながら潤渴の変化あり、  
筆の動きが大きく、躍动感あ  
ふれる若々しい作品。下部少  
し軽くても良かったかも。  
（北村白琉先生評）



「水源手記より」



現代詩文書部  
佐藤陽春

やや読みづらさはあるが感覚的な捉え方が筆者の意志力で鮮烈な輝きを見せている。

〈小竹石雲先生評〉

74回  
第74回 書道芸術院展

役員・上位入賞作品  
一入賞者名簿  
一出品者名簿



会期 令和3年2月5日(金)～11日(木・祝)  
9:30～17:30 (11日は14:00閉館)  
※入場は20分前まで

会場 東京都美術館（上野公園内）  
公益財團法人 書道芸術院

後援 文化庁・(公社)全日本書道連盟  
毎日新聞社・(財)毎日書道会

併催 第72回 全国学生書道展

74回

一般公募

準特選

現代詩文書部

漢字部	井上直子	井上花香
	今井景月	今木筝蘭
かな部	長田理恵	角真由美
	金延憲市	倉光信山
前衛書部	西村文太	鈴木麻衣子
	阿久澤隆華	塚本正子
早部	山家桂子	福井真由美
朗	加藤万丈	板倉見智子
山本	小峰美加子	
菜生	山本菜生	

漢字部	戸狩月花	伊藤祥花
	青沼香邨	
かな部	浅野黄扇	須藤有優美
	田村千絵	照井恵美子
前衛書部		

漢字部	大泉慈有	近江理恵
	尾形和子	河内もも
かな部	甲谷鳳梨	近藤智祥
	齊藤英樹	高橋梨歩
前衛書部	力安彩香	甲谷光根
	齋藤鈴木	齊藤慶子
	高橋梨歩	河内慶子
	甲谷光根	近藤智祥
	齊藤慶子	高橋梨歩

# 第74回書道芸術院展（併催 第72回全国学生書道展）

部、両部門に出品できる。  
ウ作品締め切り・搬入

エ審査 令和2年10月26日

オ優賞 A個人賞 B団体賞

実行委員長 下谷洋子  
5 学生展表彰式（帝国ホテル） 令和3年2月7日

下谷洋子

6 一般表彰式（帝国ホテル） 令和3年2月7日

7 祝賀懇親会（帝国ホテル） 令和3年2月7日

10 運営委員会 ○運営委員長 辻元大雲

石井明子 板垣洞仙

稲垣小燕

尾形澄神

川島舟錦

北村白琉

後藤大峰

小竹石雲

小浜大明

坂本素雪

下谷洋子

千葉萬城

津田海仙

高田幽玄

半田藤扇

名越蒼竹

浜田堂光

揮毫部長 大平邑峰

運営委員長 辻元大雲

以下実行委員長、実行副委員長、

陳列部長、会計担当、事務局長、

事務局次長は院展、学生展共通

事務部長 江本興舟

審査部長 尾形澄神

表彰部長 飯田春香

3 審査役員 A賞審査員（6名）

A賞選考委員（9名）

中央審査員（19名）

4 指導者作品展示（137点）

ア出品資格

○第74回書道芸術院展  
1会期 令和3年2月5日（金）～2月11日（木・祝）  
2会場 東京都美術館（上野公園内）  
3 募集規定  
ア無鑑査、一般公募の部  
・作品・書類搬入 令和2年11月30日  
・鑑別・審査 令和2年12月12・13日  
イ審査会員、審査会員候補の部  
・書類搬入 令和3年1月19日  
・作品搬入 令和3年1月27日  
ウ審査 令和3年1月28日  
・審査会員候補 令和3年1月29日  
4 作品解説会（都美術館） 令和3年2月5・6・8・11日

9 一般公募出品料 (1) 30歳以上 (2) 30歳未満および70歳以上	7000円 R 30×39 S 51×61 U 35×67.5 T 30×91	刻字作品 O 35×86 Q 65×136 P 25×167 N 86×86	篆刻作品 M 46×167 K 91×121 I 61×121 H 121×121 F 85×176 D 61×242 E 79×182 G 106×182	書作品 O 35×86 Q 65×136 P 25×167 N 86×86
---	---	--	--	---

○第72回全国学生書道展  
1 募集規定  
ア出品資格  
イ部門 第1部 幼児、小学生  
第2部 中学生  
第3部 高校生  
第4部 大学生、専門学校生  
①半紙の部 ②半切の部

○運営委員会  
第74回書道芸術院展 運営委員会を  
令和2年7月4日の理事会に合わせ、  
書面により行われた。

\* 審査会員の作品について

（褒賞） 書道芸術院春華賞（1名）

。選考は運営委員（財団理事・監事）  
が担当。（名譽会員、参与会員、選

書道芸術院春華賞（1名）

が担当。（名譽会員、参与会員、選



## 特集：第74回書道芸術院展

会」が昨年に続き全国優勝に輝いた。

### ○陳列部

2月4日、三浦鄭街陳列部長のもと、院展、学生展、指導者作品展を含む計560点という膨大な数の作品展示を行う。

今回は、陳列部員を中心に、作業にあたる人員を少なくし、陳列業者（川端商会）に作業員の増員をお願いしたため、早めに完了した。

○記者会見 毎日新聞社ほか報道関係、評論家（川端商会）に作業員の増員をお願いしたため、早めに完了した。

○評論家の眼 每日新聞社ほか報道関係、評論家（川端商会）に作業員の増員をお願いしたため、早めに完了した。

毎日書道会顧問・船本芳雲様、天来書院・比田井和子様のお二人に依頼、作品評価をいただいた。批評は作品脇に掲示し、更に印刷して参観者にも配布した。

「船本芳雲」の眼  
須田瑞兆、大友紅菴、石田和子、  
竹脇敬一郎、田子白嶺、玉井瑠  
鼎、青柳明華の各氏。

「比田井和子」の眼

市川紫泉、石下珠光、守田小映  
の各氏。

### ○「書道芸術の書・現代詩文」17人展

#### 出品者の軌跡

昨年秋季展併催としてアートサロン毎日で開催した企画展は、その後の作家の足跡として、会場内に集約して陳列した。外部講師の船本芳雲・永守蒼穹両先生には再度ご依頼して

ご批評をいただいた。内容は別途印刷し関係者に配布した。

### ○作品解説会・ワークショッピング

○書道芸術院展表彰式 全て中止

○祝賀懇親会 中止

### ○総務部

学生展、院展とも総務部は、書類搬入から作品搬入、整理、審査準備、陳列準備、撤回、搬出まで、江本興舟、桐岡銘記お二人の部長には、外出自粛にもかかわらず、長期に亘りご苦労願った。

### ○審査部

会計部は緊急事態の中、学生展とは種谷萬城審査部長のもと、事務局、総務部と連携し、コロナ禍の中、審査、事務処理ともに順調に進めていた。

### ○会計部

会計部は緊急事態の中、学生展と第74回展の全てに亘り、滞りなく処理していただき、事業終了後の残務も含め、近藤尚子担当に感謝。

○運営事務局 今回は、院展、学生展共に、運営の全て新型コロナウイルスの影響を受け、運営事務局には、多大なご苦労をおかけした。表彰式が中止となつたこともあり、賞状・賞品を含め、後日の入賞・出品者名簿の発送など、これまで以上の作業も多々、その処理の難儀に対し、山口仙草事務局長片岡豪峰事務局次長には、深く感謝申します。



陳列風景



記者会見風景



展示風景

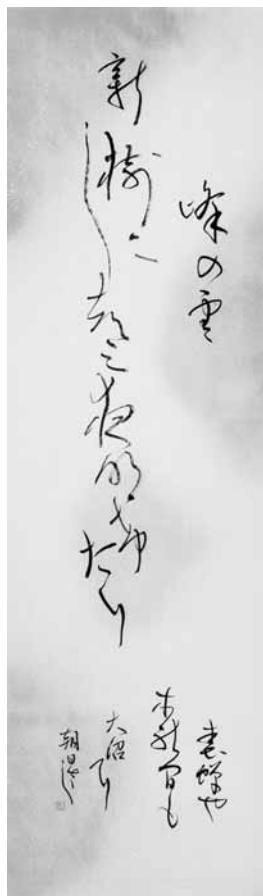


審査風景

# 第52回 現代女流書100人展 同時開催=現代女流書新進作家展

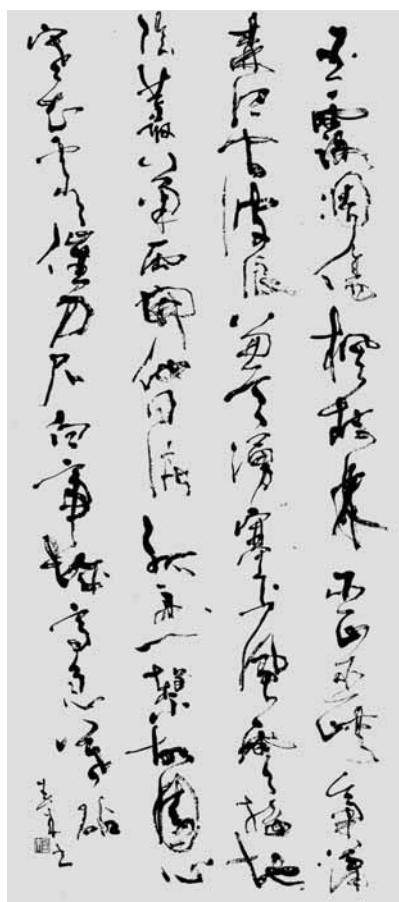
・令和3年2月24日(水)～3月1日(月)

・日本橋高島屋S.C.本館 8階ホール

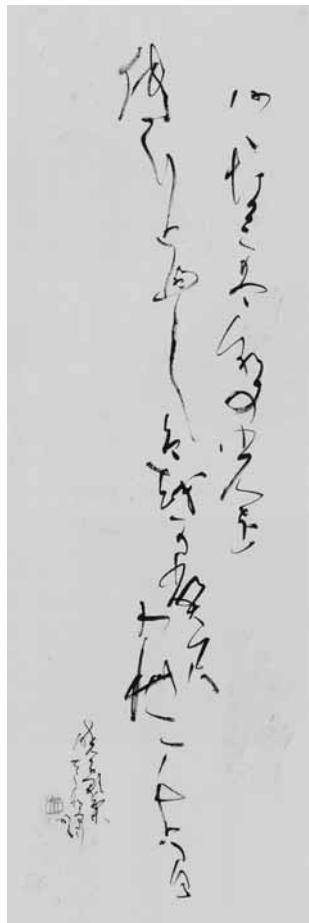


182×54cm

高田春来



182×79cm



183×61cm

ふるさとの丘



佐久間幸扇

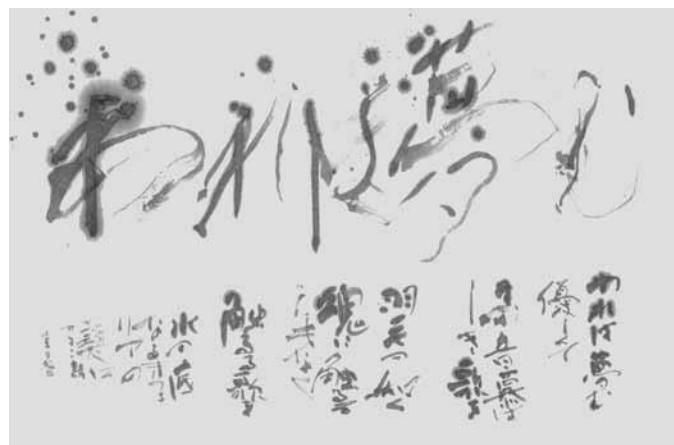
175×73cm

川島舟錦



〈胸〉

105×135cm



〈われは夢む〉

91×136cm

初釜に



177×74cm

白石和楓

〈コロナ禍を可に！〉



平岡千香子

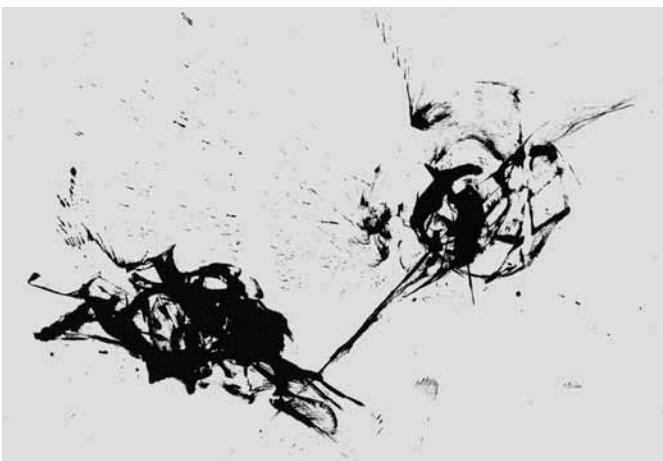
179×77cm

〈美〉



137×106cm

〈心とこころ〉



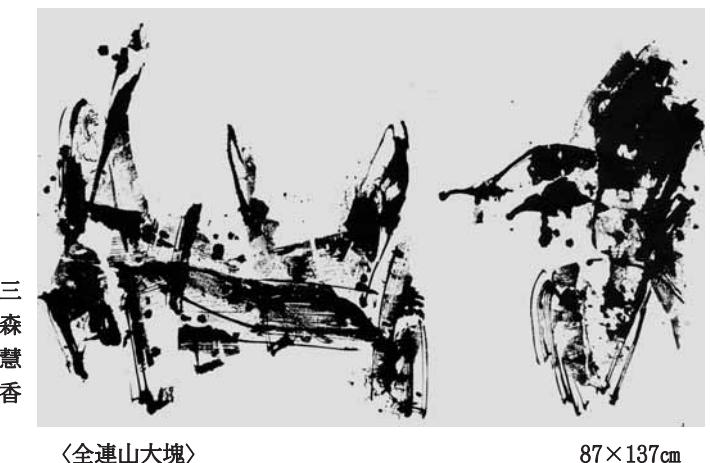
太田蓮紅

97×139cm

岡田秀韻



180×79cm

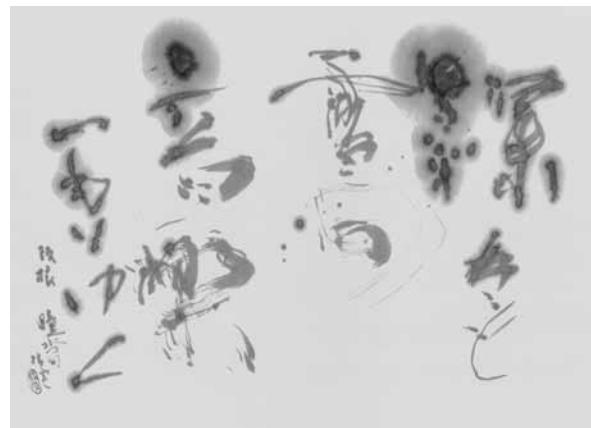


三森慧香

〈全連山大塊〉

87×137cm

## 新進作家展



いのりつづける  
山崎掃雪

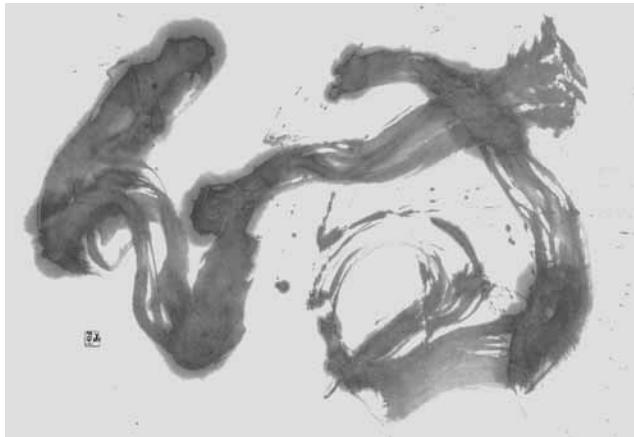
90×120cm

安藤華祥



181×58cm

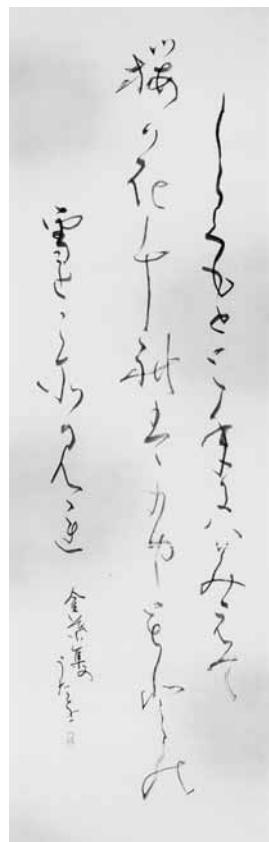
東福青箋



〈紡〉

85×122cm

〈桜花〉



小島孝予

167×53cm

〈月光〉



嵯峨翔葉

183×61cm

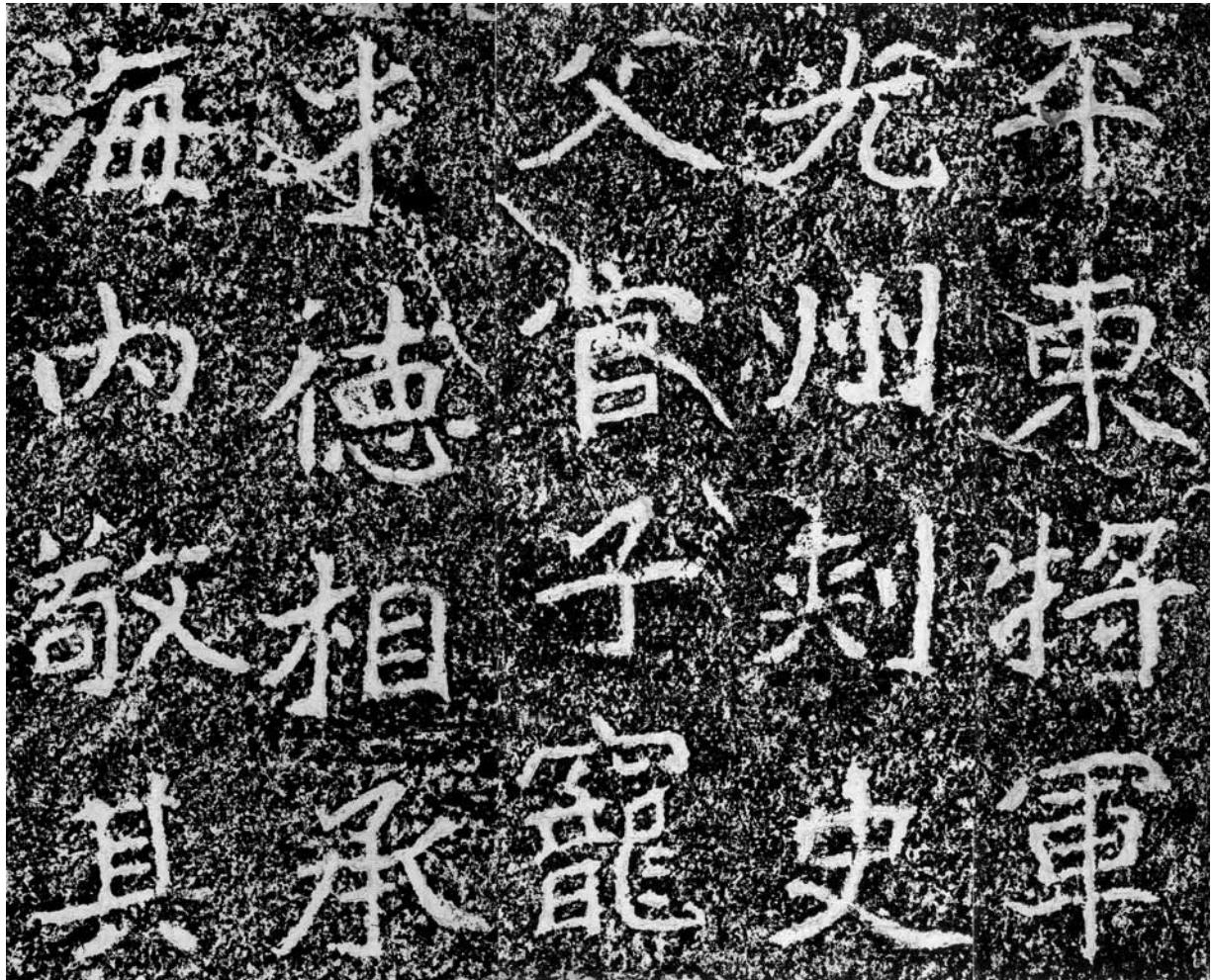
〈おしみなく〉

大嶋琥珀



122×92cm

平東將軍光州刺史。父官子寵。才德相承。海內敬其



(掲載図版・50%に縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

（編集部）

〈解説〉鄭羲下碑は、悠然と構えた文字が自然の岩肌に刻されている。表面の風化も加わり、線質は独特の趣があり、うねりを帯びて雄大で、円勢（丸みをおびた趣）に富んでいる。字形は、やや横広で、懷が広く、向勢（向き合う縦画の中程を外側にふくらませた形）の構えが特徴である。運筆は筆力が強く、ゆったりとして大きなリズムを感じられる。鄭羲下碑には、篆書の要素（均一な太さの線や丸みのある画）や隸書の要素（中鋒による線）が含まれているといわれている。直筆・藏鋒などを駆使した円筆の使いで、一点一画に気を配り、謹厳で緊張感のある用筆である。波打つように書く横画、のびのびと雄大な波法、大きく肩をうねらせているウ冠や列火点の方など、非常に精妙である。鄭羲下碑は、鄭書の諸刻中もっとも長文で、論經詩とともに書道史上屈指の名品である。

古典鑑賞  
北魏 鄭道昭

古  
典  
鑑  
賞

432

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)  
(B. 小品の部—半切以上半切以内・全紙1/2(約68×68cm)以内も可(縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

古筆鑑賞

206

高野切第三種  
（云紀貫之）

2

特別研究部臨書課題

B.A.

普通判(料紙可)、縦長に半横サイズで貼り止め可能。半僕像は半横サイズで切って使用のこと。  
古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)  
大作の部毎日登審委員会監査サイズ以内、 $2 \times 6$ 尺・全紙也可  
小品の部半切り以上、半切以内全紙可(約68×68mm以内も可)、縦横自由  
△該古筆の左記掲載部以外も可。△

(掲載図版・75%に縮小)	
かへし	おほより
きみをのみおもひこしちのしらやまは	おほぼく
いつかはゆきのきゆるときのある	八
こしなるひとにつかはしける	つらゆき
おもひやるこしのしらねのしらねどあ	おもひ毛

よみへし  
かく可  
きみをの  
いつかは  
こしな

おほより

〔解説〕高野切は、一面に雲母砂子を撒いた厚手の麻子風の料紙に書写されている。「高野切第三種」の筆者は、高野切本の現存する9卷のうち古今集卷第一八・一九を担当している。用筆法・造形上の特徴として直筆による滑らかな線条、運筆の伸びやしさ、自然で軽快なりズム、簡略化された字形、空間の広さ、そして墨色のさりげない濃淡の変化があげられる。高野切三種類の中で最も清新で、明るく流動美あふれる書風を展開している。

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょ。

※落款を必ず入れる。  
○○臨(押印のみも可)

(藤田美術館蔵)

種谷萬城

満面春風

(「元・王實甫「麗春堂」  
満面の春風)

今日は、波磔のある隸書「八分」

で書きました。隸書は篆書の点画を直線化・簡略化し、漢代に正式書体として定着します。起筆は藏鋒で、収筆に波勢があり、特に波磔に装飾的な筆法が見られます。

横広の字形、水平・等間隔の横画、転折部では筆を一度引き抜き、改めて藏鋒で入筆します。

左の作は漢簡を参考に変化を加えました。漢碑・漢簡の名品を臨書し、様々な隸書を学びましょう。コロナ禍の終息。顔一杯に喜びが満ち溢れる様が待たれます。

参考作品



萬城

書体＝自由



六月十五日締めきり

用紙 半紙普通判

種谷萬城選書

習い方解説 (二)

種谷萬城

満面春風

(「元・王實甫「麗春堂」  
満面の春風)

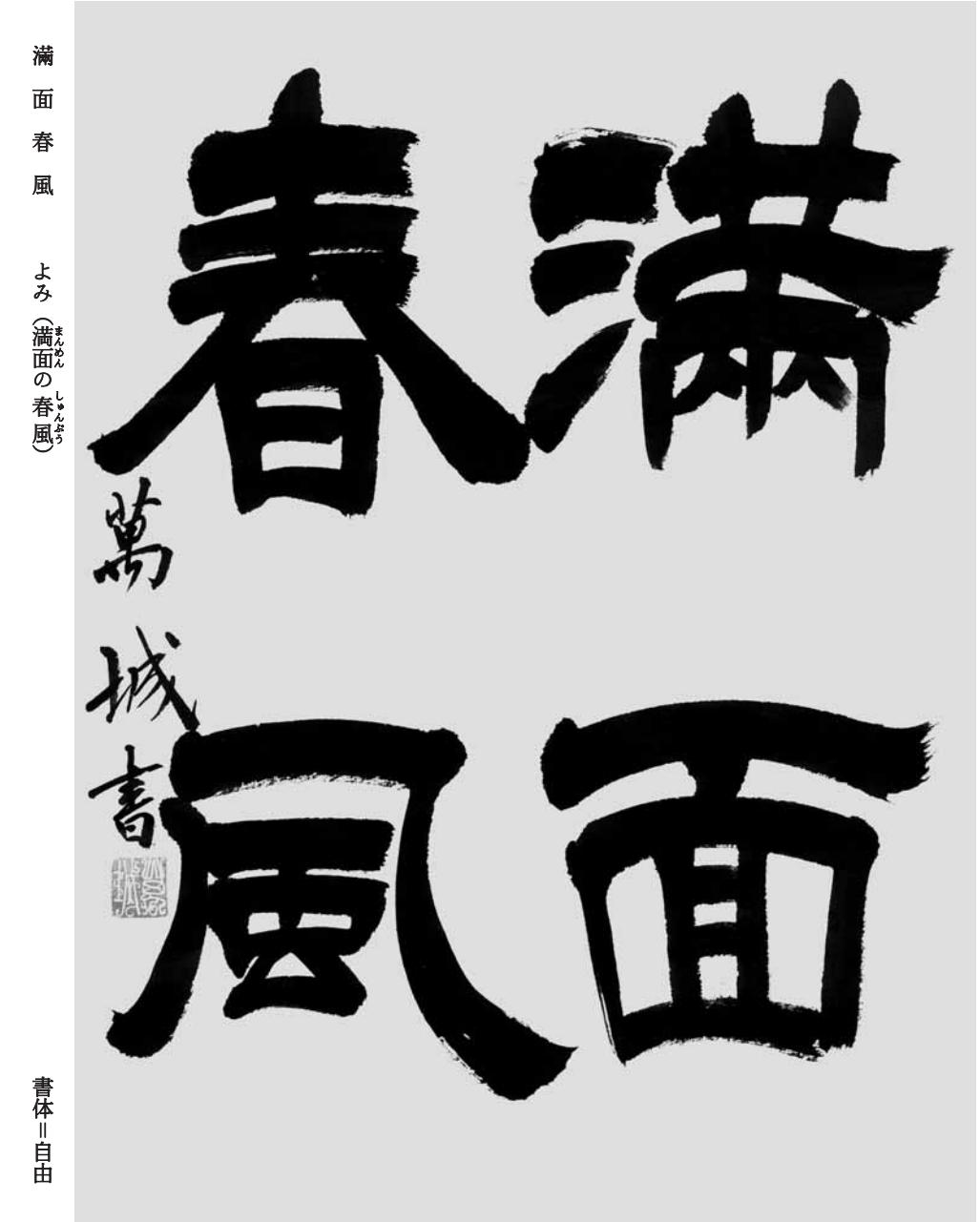
今日は、波磔のある隸書「八分」

で書きました。隸書は篆書の点画を直線化・簡略化し、漢代に正式書体として定着します。起筆は藏鋒で、収筆に波勢があり、特に波磔に装飾的な筆法が見られます。

横広の字形、水平・等間隔の横画、転折部では筆を一度引き抜き、改めて藏鋒で入筆します。

左の作は漢簡を参考に変化を加えました。漢碑・漢簡の名品を臨書し、様々な隸書を学びましょう。コロナ禍の終息。顔一杯に喜びが満ち溢れる様が待たれます。

参考作品



萬城

書体＝自由

漢字規定秀級以下【六月十五日締めきり】用紙半紙普通判

千葉蒼玄選書

## 習い方解説 (二)

千葉 蒼玄

群賢畢至  
(群賢畢至)

\* 賢明な人々がすべて集まつた

蘭亭序の中には対句となつている字句が多くある。これも群賢畢至、少長咸集(若い人から年長者まで皆集まつた)と続く。今回は楷法の極則と言われる九成宮醴泉銘を参考にした。初唐の三大家により楷書が完成したが、その中でも歐陽詢の書は入筆、終筆、結体ともにゆるぎなく緊張感がある。この後、1400年間新しい書体は生まれず漢字(書)が完成した。



書体=楷書



〈九成宮醴泉銘〉

群賢畢至 よみ(群賢畢至)

かな規定 初段以上【六月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

勝山初美選書

## 習い方解説 (二)

勝山初美

今朝咲きしくちなの又白きこと

(星野立子)

「梅雨時のくちなの花。今朝み  
る純白の花の清々しさ。他の花  
はすでに赤茶けている中にこの  
白さはひときわ目立つ」の意。

俳句ですので句の意味、作者の思  
いを推し量り、原文を活かすよう  
に心掛けました。全体のバランスと  
かなの流れが損なわれないよう、変体  
がなも少し使用しました。4月から  
古筆鑑賞が「高野切第三種」です。臨  
書してから臨むとリズムが把握でき、  
スムーズな運筆につながるでしょう。

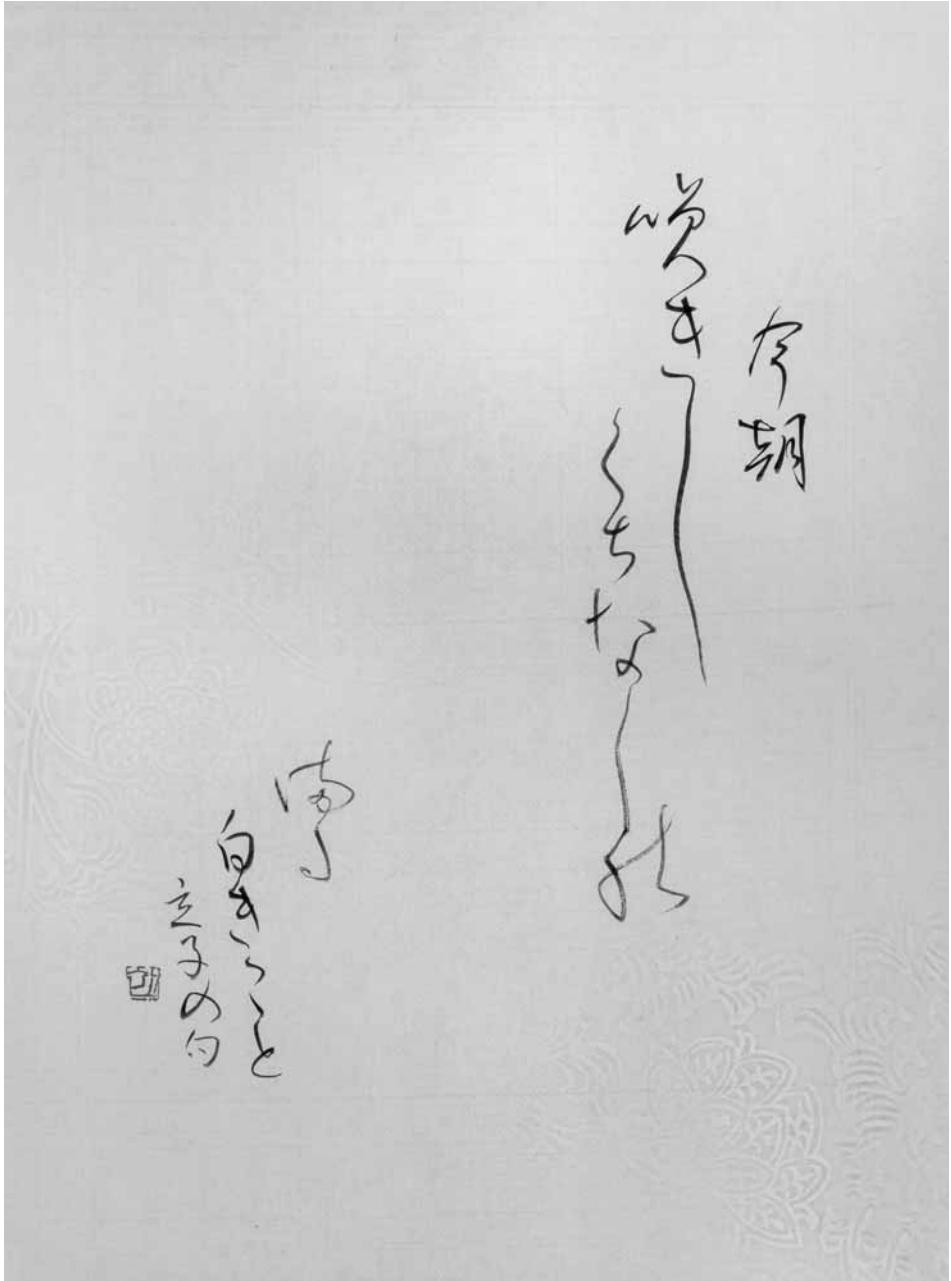
参考作品



よみ方 今朝咲きしく(久)ちなの(能)又(満多)白きこと 立子の句

創作

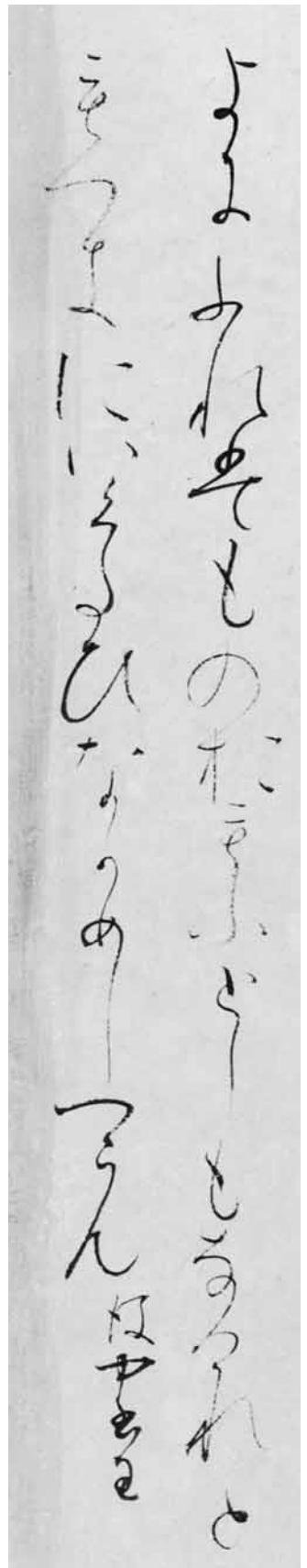
\*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。



かな規定 秀級以下【六月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大120%)



よみ方 よに(尔)ふれば(盤)ものお(於)も(毛)ふとしもな(余)け(介)れど  
も(毛)つき(支)にいく(久)た(多)びなが(可)めしつらん後中書主

かな条幅規定【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

善養寺紅風選書

善養寺紅風

有明のつれなく見えし月は出でぬ

やまぼとときす待つ夜ながらに  
(撰政太政大臣「新古今和歌集」)

横作品は、1行が短いので流れ

がつかみにくいですが、縦よりも  
変化にとんだ表現ができます。今

回は、漢語を活かして字数を少な

く、すっきりと收めました。最後

に歌集名を入れてみましたが、作

品の一部と考えて文字の大小など

調和させて下さい。書き出しは墨

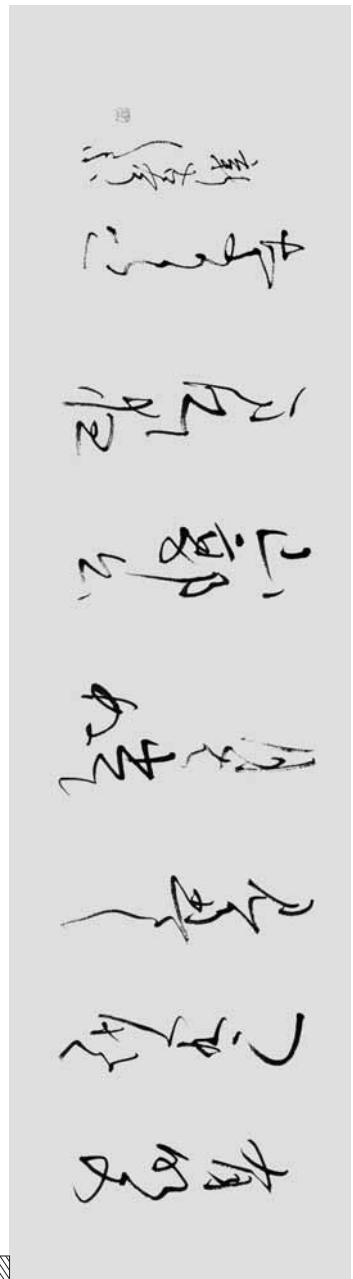
が入りますから、行頭での墨継ぎ

は避けましょう。

\* ロゴ形式に限る

よみ方 有明のつれ(連)な(那)く(久)見え(盈)し月は(者)出でぬ

やまぼとときす(山郭公)待(刀)つ(徒)夜な(奈)が(可)に(1)



創作

出品券  
貼付位置

漢字条幅規定 初段以上 【六月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

辻元大雲選書

## 習い方解説 (二)

辻元大雲



雨來石室琴先覺 春去松庭鶴不知  
(雨來つて石室琴先づ覚え 春去つて松庭鶴知らず)

書体=自由

暖かな雨が琴を湿らせ、庭の松に糞食う鶴は春が去ったとも知らず。という長閑な情景を詠んだ句です。

前回の行書表現から、今回は草書単体で表現してみました。草書の字形には特に注意してください。点画の少しの変化で異なる字となります。字典などを常に活用しましょう。

\*タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 【六月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

## 習い方解説 (二)

半田 藤 扇

書体=自由

楷書の中でも叙情的な作風の雁塔聖教序の筆法に挑戦です。線に鋼線のような強さと弾力があり、太細、強弱等の変化に富んで筆勢があります。リズムにのって書くと表情が促えられると思います。

\*筆は羊毛筆使用

藤扇書

至貴不待爵  
(至貴は爵を待たず)



川村 美泉

夏が来れば思い出す

はるかな尾瀬遠い空

霧の中に浮かびくる  
やでーい影野の小径

唱歌「夏の思い出」美泉書

水芭蕉の花が咲いている

夢見て咲いている水のほとり：

□すざみながら書いてみたい唱歌です。

今回も、文字の整え方や漢字とひらがなの調和を意識しながら、リズムに乗って書きましょう。

最初はゆっくりでかまいません。慣れるに従い、少しずつ速度をつけ書いていくと、生き生きとした表情の作品が生まれるでしょう。

夏が来れば思い出す  
はるかな尾瀬遠い空  
霧の中に浮かびくる  
やさしい影野の小径

唱歌「夏の思い出」

- ◇用紙 市販ハガキまたは私製のハガキ大(4.8×10cm)の白紙を使用  
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)  
「注意!! 用紙の大きさにこだわりが見られます。  
用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。」

至急　返信　緑樹　青葉が目に

至急　返信　緑樹　青葉が目に

晴れ渡った皐月の空に舞う鯉幟

大隅晃弘

(楷書) 至急　返信　緑樹　青葉が目に  
(楷書) 晴れ渡った皐月の空に舞う鯉幟

(行書) 至急　返信　緑樹　青葉が目に  
(行書) 晴れ渡った皐月の空に舞う鯉幟

基本用語 「至急」 急いで知らせる場合の添え書き。  
「返信」 返事をしたためること。「返事」。

◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を

(掲載手本95%に縮小)

◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可

◇所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

# ホープ作品 各部総評

NO. 719

ペン字部 師範 佐藤 祥扇  
筆力のある重厚な線質が冴え、  
品格高く伸びやかで安定、余白処  
理も見事で魅力あり。

◎ペン字部總評 行書作の素直な  
筆使いの整った作品が多くた。  
さらに本文と落款のバランスに配  
慮を望みます。 (仙草評)

やなせたか一さんの出身地香北  
町に、アンパンマンミュージアムが  
あります。子供達に大人気の  
原画やイラストを多数展示  
しています。祥扇書齋

かな条幅部 準師 積田 雅雲  
詩文調の香りがして風情ある作。  
1字換えただけなのに趣がかなり  
変わり、柔らかく穏やかになった。  
◎かな条幅部總評 課題の「ゆき  
暮て」に、雪は使いません。意味が  
違います。非連続の部分は、氣脈で  
リズムを続けましょう。(洋子評)

現代詩文書部 特選 萱野 映紅

筆の動きを、軽やかで大小・潤  
渴等の変化を巧みに融合させ、瀟  
洒で品格のある魅力的な作品。  
◎現代詩文書部總評 独創的な作  
品にたくさん出会いたい。表現力を  
高める努力をして欲しい。(宗苑評)

前衛書部 特選 長澤 紅苑  
運腕大きく、気迫のこもった力  
強い線質。何か生まれて来そうな  
興味ある作品。  
◎前衛書部總評 作品は一筆目で  
ほぼ決定、自分らしい表現の作品  
を希望する。 (仙岳評)

かな部 師範 後藤 良泉  
墨の濃淡美しく温厚な筆致が自  
然な旋律を生み、爽やかな明るい  
作品に仕上がっています。  
◎かな部總評 墨色が濃すぎて連  
綿の良さが表現できなかつたり、  
淡すぎて作品が美しくないのもあ  
り残念です。 (峰子評)



漢字条幅部 師範 森 適

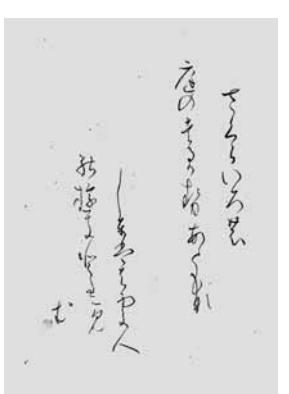


漢字条幅部 師範 森 適  
金文を用い、筆法が着実で、線  
質、字形、章法に安定感がある。  
真摯な学書の積み重ねの成果です。



◎漢字条幅部總評 上級下級共参考  
考手本に倣った隸書作品に秀作が  
多かった。詩文の内容を理解し、  
誤字にも注意が必要。 (萬城評)

漢字部 師範 柿沼 彩香  
軽快なりズムでのびやかな木簡  
の味を表現。明るく広がりある雰  
囲気が楽しい作。



◎漢字部總評 上級5文字表現は  
無難だがリズムに欠ける作多し。  
書体書風の多様さ含めさらに工夫  
を。下級楷書基礎力養成を。(大雲評)



## 実用書優秀作品

選評 大平邑峰

◎ 実用書部総評

厳選にも拘らず多数の出品、熱意ある作品に敬服す。紙面に対する文字の大  
きさ、筆先の利きや弾力を活かした線表現を工夫したい。  
(邑峰評)

春は名のみの風の寒さも感じぬ候ト  
波多野早紀

急啓不備早春寒さも緩み  
春は名のみの風の寒さも感じる候と  
春は名のみの風の寒さも感じる候と

**特選廣戸美岐**  
運筆の大らかさや自然で柔軟な線  
に筆者の技量と個性を感じる。

急啓 不備 早春 寒さも緩み  
急啓 不備 早春 寒さも緩み  
春は名のみの風の寒さも感じし候と  
春は名のみの風の寒さも感じし候と

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 田村鄭雲 三浦鄭街 倉林紅瑠

## 小品の部

現代詩文書 (青山)

熊谷青山

「杉本明子の歌」

前衛書 (墨洋)

高橋栄杏

「芽生え」



高橋栄杏書

133×33cm

◆半切の縦長形式に運筆  
のリズムがよく展開して  
いる。さらに鋭い切れ味  
ある線もほしい。墨色一  
考要す。

(紅瑠評)



熊谷青山書

134×34cm

◆潤筆・渴筆、太細を巧み  
な構成で半切作品を上品に  
面白く表現している。鍛錬  
の成果を發揮。(鄭雲評)

かな (大雲)

神谷雲卿

「香川景樹の歌」

臨書 (大雲)

佐藤希雲

「居延漢簡」



神谷雲卿書

135×35cm

◆古筆調を残して明るい  
仕上がり。息の長いしを  
ポイントにし、左右の字  
組も心憎い。潤渴一考し  
たい。(洋子評)

佐藤希雲臨

135×35cm

◆半切一行5文字の躍動感  
溢れる見事な臨書作。バネ  
のきいた表情豊かな波磔が  
美しく心地よい作品となっ  
た。(鄭街評)

(鄭街評)

創作の部(37点)	漢字 - 3点	かな - 5点
前衛書の部(41点)	漢字 - 8点	かな - 21点
漢字 - 39点	漢字 - 2点	かな - 2点
漢字 - 1点	漢字 - 1点	漢字 - 1点
漢字 - 1点	漢字 - 1点	漢字 - 1点

総出品点数  
78点

〔特選候補者〕

〔創作の部〕

〔漢字〕

〔かな〕

〔前衛〕

〔現代詩〕

〔漢字〕

〔かな〕



漢字研究部  
(隸書木簡)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



柿沼彩香

漢字研究部 特選 柿沼彩香

運腕大にして伸びあり、明るいリズムを感じます。また、原帖の細部にまで注意を払い、正確な筆致で書かれています。特に横画の起筆や收筆の用筆は見事で、素晴らしい臨書作品です。

◎漢字研究部総評

木簡隸書の臨書は行草体作品制作のベースとなる重要な学習であると考えます。

自由奔放に書かれたこれらの木簡隸書は筆者によってそれぞれ個性的ですが、特に横画の角度が大きく異なっています。今回の居延漢簡は、ほぼ水平に書かれています。出品作

品の中には敦煌漢簡のように右上りの臨書も少なくありませんでした。その他、右肩の転折を切って書かれた作品もありましたが、もう一度観察してみて下さい。



雅明藤紅幸政  
悠香瓊霞泉夫

芳美萩成美雅  
美千雨子悠芳

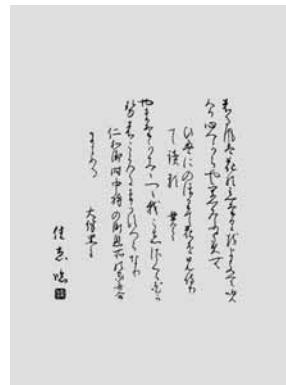
順祥良紫小清  
一苑子峰遙耀

晶花森咲翠裕  
子源城景玉子

かな研究部  
(元永本古今集)

運評 佐藤希雲

今月のホープ作品



苗代佳恵

美しい料紙に丁寧に臨書されています。原本の霧雨気を再現しようという努力がうかがえました。今後は運筆のリズムを手に入れるようにして下さい。元永本も3回目となり、だいぶ手慣れた感じがしました。ただし「読」のごんべんの「点」を打ち忘れている作は、評価を下げるを得ませんでした。

◎かな研究部総評

元永本も3回目となり、だいぶ手慣れた感じがしました。ただし「読」のごんべんの「点」を打ち忘れている作は、評価を下げるを得ませんでした。

かな研究部成績表

有う水蛭澄玉松秀	菊立高紅立澄大清正大澄楓和東潮紅た竜光上正大清桜草月精崎風精春雲月華月雲春葵平向音鑑か泉彩泉華雲月草
石飯飯阿青青木作	新千二田菊深驚飯杉竹黒字後井畠齋須浜高浅早岡磯境苗代井田通烟地澤山島浦澤柳田藤上山藤田野橋川部田貝野代み
洋幹洋美冬松葵子生子生子悠華月郷	惠白麗美白佳美ミ幸恒竹春良美芝杏香永雅な麻清和佳子香子雅月梢子葉華泉二香邑舟董泉江朗美耀子恵

京や華中大上大長麗白水上大大春千有高澄書薑た光竹蕙蒼こ大広 正高た A 八橋ま仙川雲泉雲月澤露海阪雲陽葉秋真春泉月か彩美書陽だ阪島 華井か I 街

吉山山三三本堀原長野根中富積土種武新七島猿櫻坂込小小川金加柳梅生井田口田浦多切澤谷口岸村原田谷山井行三渡田本山松林本瀬田津方ノ内川久とシ内木未と悦草龍智里美東萩南真日和代美春佑律雪蒼道和幸典 美みヶ扇雅つ森花一瑞と悦草龍智里美東萩南真日和代美春

仙松村正明竹高声石千澄 A 澄上姫青姫大書四生恵や天澄甲竹玉白土樹明八八秀大竜英高華東蘭土大華漢扇崎香習葉春 I 春泉路蓮路雲泉枝大石ま璋春と扇川露氣原漢生雲歌雲峰崎仙向鼎氣雲

熱青木選渡吉柳矢宮松増堀深萩乘沼西名永塚田田田田高高関春杉庄鳩篠七椎高吳吉北菊菅川川河加香大梅宇岩伊池藍海木選渡田口内久重田江堀原船田川取井田村玉口橋藤井根原田司田條名武瀬村地野崎崎合藤川島原井田東田澤

桃玉枝鶴隆登成愛翠華幸清洋抱奎美伯美春恵哲代幸松小代慶祥紫称美裕光玄豊彩欣意靜優一和翠翠竹虹楠代京信白

祥映香竹 A 蘭正華蘇玉富春高澄高清こ高秀蒼附伏千清大華樹青青明大も秀梅椿誠證久澄た誠 A 花華八堺誠正八大こも生大

杉菅須代清島柴篠佐佐佐酒齋小小木小熊國岸菊金加葛鹿小小荻岩大大鶴植岩岩入伊伊板石石石石生五新新天

田野賀田水田塚藤藤々々井藤峰林島暮池井峰地子岡藤島野澤田部野西島澤田潤瀬崎谷藤藤垣渡田崎川駒十井羽

睦映一葉紀貴洋謙育綾芳和知翠加嘉美直宏琴民泰つ萩雅惠裕朱和良藤鶴一昌琴紅祥祥董悠青翠悦甘津代萩佳藤翠

選竹芳竹東幸祥椿竹桜た八生墨幕楓高高長生蓮誠掃長正上は上土泉遊薈一薈遊大秀も春清た高泉翠玉琇華正桜宮外原蘭美伯扇紫翠美草か街大宣張会真崎月大紅和雪月華泉せ泉氣会雲田葦田雲阪水く汀月か真会柳松韻仙華草城

120渡渡横山山安八守森本村宮真松松松増牧本福平除林濱長根西永長中中土富富戸渡德樋鶴辻近田竹竹瀧高鈴鈴名邊邊山本木木友友木田柳上下庭島坂尾浦田野田原富山尾田谷岸澤田井村村野居田澤部子江泉淵池中内井田橋木木氏眞橋志タ美有さか喜惠理美名美信蘭真梅砂紀津龍小佳樂ヶ翠津希玉佳清美里牧だほ美陽久正瑠時久保一美京萩惠藤紀淳雪亞洋柳耶曾香嫗美昌陸利略苟溪舟紀香京子舟子博董月翠ミ舟江子江子次雪萌子子一子子美子仙子琴子仙彩子風子子董希子芳衣子華美好恵心子

かな研究部 特選 苗代佳恵



良英芝  
泉二香

杏香永  
邑舟簾

雅み  
泉江

麻清和  
美耀子

佳作

60書

佳

作

</div

## ●篆刻

【六月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰

でも出品可。

①篆刻

(ア)課題による語句  
(イ)原印自由  
(出品の際、原印のコピー添付)

②創作 語句自由



### ○出品方法

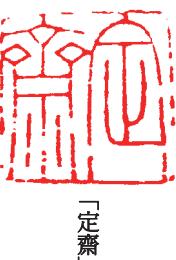
用紙の右側に押印し、左側に印影の作文を明記、並びに落款（氏号）を入れる。

(篆刻)	
北上硯水附中泉大芳琴秀	作(6音)
成後藤久保村眞寺小野織田良奈華仙	作(6音)
能考市南城美喜善	作(6音)
香丸山入選(6音)	佳作(6音)
須賀澤妙子一起(選外なし)	吉高片岩井上伊藤高橋岡井上
	生大天雲網綱水陵水
	大雲孝敏男
	佐藤敏雄
	進申峰雄香

(創作)	
や生石心大心石心	秀作(6音)
橋本中大伊藤昌島沿清麗	佐藤希雲
花富見花唯小遊一書画	佐藤希雲
宮野高金屋赤逢内木橋	佐藤希雲
成紫蘭渕洋庵治唯一舟	佐藤希雲
(選外なし)	佐藤希雲

定価	一部	七五〇円
発行人	辻元洋一(大雲)	
印 刷	リソグラフ	
発行所	株式会社	
電話	101-0031	
FAX	東京都千代田区東神田一丁目六七	
振替	東神田プラザビル三階	
	03-3862-1157	
	03-3862-1150	
	http://www.lmso.jp/shogei/	

〈原印コピー〉



趙之謙(清)  
「定齋」

- 印面の大きさは2.4cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、篆刻とも応募は一人一点。

### 5月号 篆刻課題

### ◎篆刻部総評

原印の繊細な刻線を佳く捉えて臨摹している。その運刀、見事。

作品の質は、部門開始当初以降、回を追って向上してきて

(大峰評)

無理のない構成でしっかりと創作している。完成度の高い印である。

<特選>



「佛生」

篆刻

719号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰



「横浜国際」

創作

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は  
東京都千代田区  
東神田一一六一七  
東神田プラザビル三階  
FAX(03)3862-1154  
電話(03)3862-1155  
令和三年四月二十五日印刷  
令和三年五月一日発行  
101-0031

お問い合わせ、ご連絡は、  
月曜日～金曜日九時～十七時の間に  
お願いします。(土・日・祝日は休み)

### 送 料

1か月の購読部数が  
1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は  
送料免除